

中田かわら版 6 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

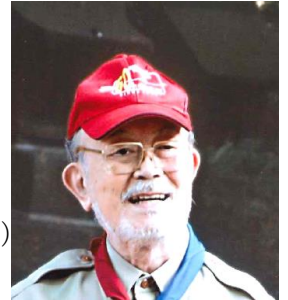
制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

宮本 忠直さん 御霊神社宮司 2022 年 3 月 31 日死去、享年 91 歳

青少年育成、郷土の歴史研究に貢献

宮本先生が亡くなられたと聞いて悄然たる気持ちになった。昭和、平成、令和と 3 代にわたって中田、泉区域の歴史、教育、文化を育成、継承してきた偉大な功労者が中田からまた一人消えていった。だが、宮本先生が残された功績の数々は永久に消え去ることはない。私が中田に来た昭和 39 年当時、それから数年、それこそ雲の上の存在のような人が 3 人いた。小山俊雄、宮本忠直（御霊神社宮司）奥津喬雄（中田連合自治会長）の諸氏である。もう一人加えたとしたら山口寅蔵氏だろうか。中田の中ではいつも目立つ存在であり、機会があれば会ってみたい憧れの人であった。



昭和 46 年、地元で体育指導委員に推薦されたことで事態は一変した。中田連合自治会のイベントや講習会で直接、間接的に顔を合わせるようになったからだ。幸運だったのは宮本先生が体育指導委員でいたことだった。年 1 回の親睦会を兼ねた 1 泊旅行は楽しい思い出も多い。47 年、小学 3 年の長男が宮本先生が団委員長を務めるボーイスカウト横浜第 31 団に入団。家内がデンマザーに。昭和 53 年、ボーイスカウト発団 25 周年の時は宮本先生、小島光男さん、小島英夫さん、OB の小島薫さんと私などで団の 2 階事務所
所で記念誌『お宮の森のガキ大将』を作り上げた思い出は懐かしい。

宮本先生は國學院大學で神学を学ぶ。小澤明夫氏（中田東）は宮本先生の後輩で歴史を専攻。ともに山岳部で一緒だった。その後の宮本先生は郷土史の研究者としても著名な地位を築く。郷土歴史に関心がある人なら、歴史書やガイドブックなどいたるところで 4 人の名前を発見することだろう。宮本忠直、小澤明夫、小島貞雄（以上中田）、有馬純律（上飯田）の諸氏を。例えば『中和田郷土誌』『いづみ いまむかし』、泉区散策ガイド『水と緑と歴史の散歩道』『郷土いづみ』（泉区歴史の会）など。泉区が戸塚区から

昭和 61 年 11 月に分区し、10 年後、歴史愛好者らが中心となり平成 6 年「泉区歴史の会」（大橋俊雄会長）を設立。その中心になったのが宮本先生だった。翌 7 年 5 月に会報「郷土いづみ」を創刊。小澤明夫氏ら 5 人の編集委員が決まり、私が編集長で記事のまとめ、装丁からレイアウトまで担当。5 月の総会に第 1 号ができたが、泉区など地元の歴史のことなど全く分からず、校正に苦勞した。これを助けてくれたのが他ならぬ宮本先生や有馬先生だった。自己に厳しく他人にやさしく、常に中田の将来を考えていた。南無。（宮田貞夫）



米寿のお祝い（左から 5 人目）

有馬 純律先生の話

『中和田郷土誌』など多くの泉区域の歴史研究の礎を築かれた人。宮本氏が「泉区歴史の会」の会長の時私が副会長でいろいろ教わり、お世話になりました。現在、泉区域の歴史研究を志す人たちにとって、掛け替えのない人でした。ご逝去を悼み、心からお悔やみ申し上げます。

～一人ひとりが CO2 を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

■中田ミニバスケットクラブ

優勝目指し、快進撃！



中田ミニバスケットクラブ（島田繁監督・26人）が令和4年前期一次リーグ戦（横浜市西部ミニバスケットボール連盟主催）Bリーグで3連勝し1位通過、決勝進出を決めた。参加20チームが5ブロック（1ブロック4チーム）に分かれその組の1位チームが決勝戦に臨む。昭和47年（1972年4月）に結成した同クラブは、今年で50周年を迎えた。数々の優勝記録を持つ伝統ある強豪チームだ。現在、人員は26名（男子18、女子8名）で全員が中田小学校の生徒で構成されている。

5月14日、土曜日の午後、中田小学校体育館で行われた練習を取材した。練習日は月・水（16:30～18:30）、土（13:30～18:30）の週3回。ヘッドコーチの山本瑞起さんは同クラブのOBだ。それに松本康之さん、中村浩二さんの二人のコーチがつく。土曜日のこの日は、開始時間前から全員がボールで飛び回っていた。1時30分、ピーの笛の合図で全員がボールをもって中央に集まり円陣を作る。次にボールを持ったまま腹ばいになって右に、左に体をごろごろ。仰向けになり足を上げたり下げたり。これが終わると、立ち上がって1列に並び二人一組になり、前者が両手をつき後者が両足を抱えて走る。例の一輪車になって体育館の端から端までのおよそ20メートルを2往復。ハードだと思うが、みんなケロッとしている。もちろん全員額から汗がたらたら。これを毎回25分くらいやり、ようやく休憩に入った。これら一連の動作はキャプテンの市原海良君（中田小6年）のリードで行われる。

最後に山本コーチに話を伺った。「ご覧のとおり、みんなバスケを楽しんでいる。勝負も大切だが、その前に基本的なルールや礼儀、基礎体力作りが第一。町で出会っても、あれが中田ミニバスケットの選手だ、と褒められるような選手に」。取材が終わりコーチに挨拶をして会場を出てしばらくして、市原君が走ってきて「今日は私たちのために取材に来てくれてありがとうございます」とお礼を言われた。山本コーチの期待どおり、子供たちは立派に成長している。「優勝したらまた取材に来るからね」。市原君と固い約束の握手をして別れた。（宮田貞夫）

「森の愛護会」10周年記念植樹会

「どんぐりの木 早く大きくなーれ」新1年生

宮の台町内会

今年3月中田宮の台市民の森愛護会による「新1年生記念植樹会」を訪問した。この愛護会は昨年活動10周年を迎えA3裏表2枚の記念誌「10年目の森」を発行した。森には豊富な種類の樹木が有り沢山のどんぐりを落とす。愛護会では拾ったどんぐりや自然発芽した物を大切に育て適切な場所へ移植してきたが、この度10周年記念の一環として植樹会を企画したものである。令和4年3月13日に5家族10人ほどの応募を得て、発芽から3年くらいの移植に丁度良い苗木を用いた。これから4～5年で実（どんぐり）が成るとの事で、新1年生（6歳）が中学入学の頃には、



「僕の私の木の実が成る」と言う楽しい夢が広がっている。参加者は皆この日の青空のように明るかった。

（木に名札を付けますが、個人の所有にはなりません）

（河内満明）

編集後記

六岡翠さんの絵手紙を初めて目にした。中田駅構内の展示場に「六岡先生を偲んで」と、題してたくさん作品が並んでいた。中田在住の方でかなり多くの生徒さんがいたと聞く。最後まで絵手紙を書き続け、人々の心を癒してくれた先生。ご冥福を祈ります。（純子）

☆六岡さんは中田かわら版令和元年8月号の「この人に会いたい」<53>で紹介しています。

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、嶋 宏之